



日本芸術文化振興会

法人概要

創る、 育てる、 未来へつなぐ

芸術文化は、いつの時代も人々の営みと共にあり、
一人ひとりの生きる力をともしてきました。
私たちは、多様で豊かな日本の芸術文化の土壌を守り、耕す拠点として、
あらゆる人にその恵みが広がる社会を創っていきます。



初代国立劇場大劇場(昭和41年(1966)～令和5年(2023))



ごあいさつ

独立行政法人日本芸術文化振興会は、昭和41年に我が国古来の伝統芸能の保存及び振興を目的とする特殊法人国立劇場として設立されて以来、60年にわたりその役割を果たしてまいりました。

平成元年及び平成2年の法律改正により、法人の目的に現代舞台芸術の振興及び普及並びに文化芸術活動に対する援助の二つが加わり、振興会は我が国における芸術文化振興の中核的拠点としての使命を帯びています。

平成31年からは日本博事務局を担い、日本の芸術文化の魅力を国内外に発信するプロジェクトとして、様々な美術展・舞台芸術公演、芸術祭などを日本全国で実施してきました。

長年にわたり皆様に親しまれてきた初代国立劇場・初代国立演芸場は、再整備のため令和5年10月より閉場しておりますが、再整備期間中も伝統芸能の継承と振興の灯を絶やさぬよう、他の劇場・施設等にご協力いただきながら、公演の実施や伝承者の養成、調査研究等の事業を継続し、より多くの方にその魅力を発信できるよう引き続き尽力いたします。

日本が誇るかけがえのない伝統芸能を未来へつなぐとともに、芸術文化を通じて社会に貢献し続けることができるようさらなる努力と工夫を重ねてまいりますので、変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

独立行政法人日本芸術文化振興会
理事長 長谷川 眞理子

もくじ

ごあいさつ	01
目的・事業／沿革	02
組織図	03
助成事業	04
公演事業	06
養成研修事業	08
調査研究・資料収集事業	10
日本博	12
普及教育・バリアフリー・外部連携	13
国立劇場再整備等事業	14
施設のご案内	15
会員組織のご案内／寄附のご案内	17

目的・事業

独立行政法人日本芸術文化振興会は、芸術家及び芸術団体等が行う芸術の創造・普及活動その他の文化振興活動を支援するとともに、日本古来の伝統芸能の公開、伝承者の養成、調査研究等を通じてその保存・振興を図り、あわせて現代舞台芸術の公演、実演家等の研修、調査研究等を通じてその振興・普及を図ることにより、芸術その他の文化の向上に寄与することを目的としています。

文部科学大臣が定める業務運営に関する「中期目標」に従って策定された「中期計画」及び事業年度毎に作成する「年度計画」に基づき、次の事業を行っています。

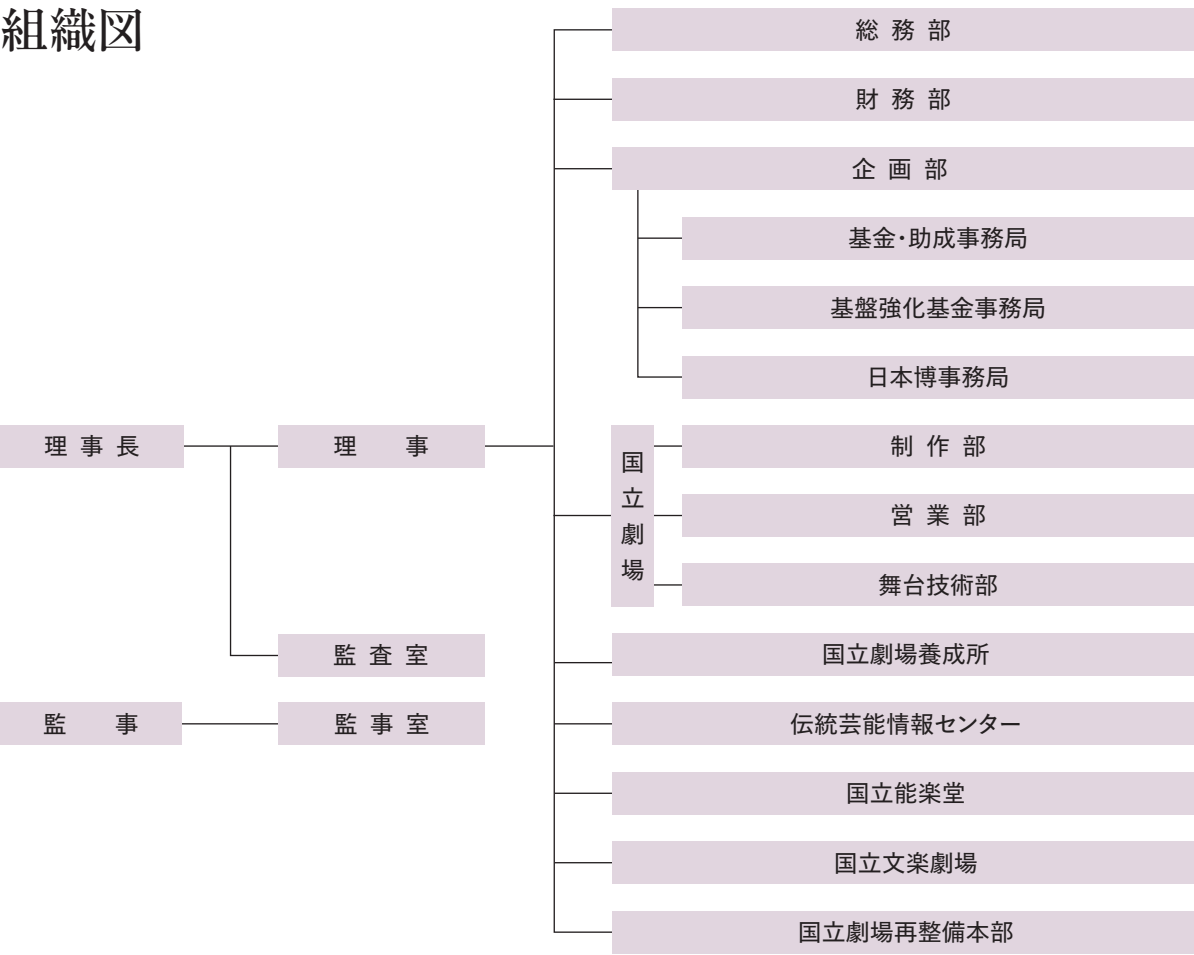


沿革

独立行政法人日本芸術文化振興会の前身である特殊法人国立劇場は、伝統芸能の保存及び振興を図ることを目的として、昭和41年7月、国立劇場法に基づき設立されました。

●	1966(昭和41)	6月	国立劇場法公布
		7月	特殊法人国立劇場設立
		11月	国立劇場開場・国立劇場開場記念公演
●	1979(昭和54)	3月	国立演芸資料館(国立演芸場)開場
●	1983(昭和58)	9月	国立能楽堂開場
●	1984(昭和59)	3月	国立文楽劇場開場
●	1990(平成2)	3月	国立劇場法の一部改正法施行(特殊法人日本芸術文化振興会に名称変更・芸術文化振興基金設置)
●	1997(平成9)	10月	新国立劇場開場
		11月	新国立劇場舞台美術センター資料館開館
●	2002(平成14)	12月	独立行政法人日本芸術文化振興会法公布
●	2003(平成15)	3月	伝統芸能情報館開館
		10月	独立行政法人に組織形態を移行
●	2004(平成16)	1月	国立劇場おきなわ開場
●	2019(平成31)	4月	日本博事務局設置
●	2023(令和5)	10月	初代国立劇場、初代国立演芸資料館(初代国立演芸場)、伝統芸能情報館 閉場・閉館

組織図



独立行政法人 日本芸術文化振興会



この紋章は、奈良薬師寺東塔の水煙より考案したものです。日本の伝統芸能の一大殿堂にふさわしい、天来の妙音を笙・笛・琴・空篳の楽器によって奏でる楽天女の姿を紋章の中心に配し、その周囲は、この六呂の音律に乗って虹のごとく空にたなびく、六流の天女の霓裳を表現したもので、国を代表する劇場の品位に似つかわしい優美と典雅をその主調としたものです。

吉田 五十八(建築家・東京藝術大学名誉教授)

※当初、本紋章は国立劇場の紋章として作成されましたが、法人の名称変更を経て、現在は日本芸術文化振興会の紋章となりました。

国立劇場おきなわに係る業務については公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に、新国立劇場に係る業務については公益財団法人新国立劇場運営財団に委託しています。

公益財団法人 国立劇場おきなわ運営財団



国立劇場おきなわ

三つの円は劇場、演者、観客が有機的に繋がりがりしかも力強く躍動しているイメージを表しています。さらにこれらの円は、沖縄の伝統芸能が日本本土、アジアの国々と文化的な相互作用を経ながら継承され、未来へ向かって振興発展していく様を表現しています。

兼島 暁子(グラフィック・デザイナー)

公益財団法人 新国立劇場運営財団



NEW
NATIONAL
THEATRE
TOKYO

新たに誕生する現代舞台芸術の拠点にふさわしい斬新さと格調を併せ持ち、未来へと至る高い創造力を表すことをテーマに考案されたものです。躍動感あふれる曲線によって構成されるその図形は、演技するものと観客というふたつの存在を表し、相異なるそれぞれの思いが、劇場という空間の中でせめぎ合い、大きな感動へと昇華するイメージを象徴しています。

上原 昌(デザイナー)

助成事業

日本の文化芸術活動を支えるために



文化芸術振興費補助金による事業/舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)
公益財団法人読売日本交響楽団 撮影:藤本崇

多くの人々が文化芸術に深く触れ楽しむことができる社会の実現と我が国の文化芸術の水準の向上のため、多様な資金を活用し、芸術家や芸術団体が実施する活動を支援しています。

助成金の交付

全ての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、平成2年(1990)3月に官民の協力により芸術文化振興基金が創設され、平成2年度からこの基金の運用益等による助成事業が始まりました。

平成8年度以降は文化芸術振興費補助金による助成事業が文化庁から移管され、芸術水準の向上を目的とした助成事業及び委託事業を行っています。

また、令和5年度には国からの補助金により新たに文化芸術活動基盤強化基金(通称:クリエイター支援基金)を設置し、クリエイターの育成及びそのための文化施設の機能強化、育成プログラムの構築など、弾力的かつ複数年度にわたる支援事業を行っています。



芸術文化振興基金による事業/国内映画祭等の活動
特定非営利活動法人キンダーフィルムフェスト・きょうと

アーツカウンシル機能の強化に向けた取り組み

文化芸術への支援策をより有効に機能させるため、文化芸術活動に対する援助に関する中核的拠点としてアーツカウンシル機能(専門家による助言、審査、評価等)の充実を図っています。

各分野にプログラムディレクター及びプログラムオフィサーを配置し、その専門的な知見を活かして、公演等調査、芸術団体への

助言や意見交換、調査研究等を行うことにより、芸術団体等の自律的、持続的発展を目指す伴走型支援の取り組みを進めています。

また、文化芸術活動の支援に関する情報の収集や提供もあわせて行い、その内容の充実に努めています。



助成事業
ウェブサイト

3つの助成制度

芸術文化振興基金による事業

政府からの出資金及び民間からの出捐金を原資とする芸術文化振興基金の運用益等により助成を行っています。

支援件数 **457** 件
支援総額 **7億3,926** 万円
(令和6年度実績)



芸術文化振興基金

芸術を限らないパワーで、力強く未来に向かって育成する。このイメージをARTの頭文字のAと、無限大の記号というエレメントで構成したシンボルマークです。
色彩は新しい時代の知性と、深い伝統の心を温かいブルーで表現しました。
福田 繁雄(グラフィック・デザイナー)

文化芸術振興費補助金による事業

文化庁からの文化芸術振興費補助金を財源として助成を行っています。

支援件数 **629** 件
支援総額 **102億870** 万円
(令和6年度実績、委託事業(学校巡回公演)を含む)



文化庁

文化芸術活動基盤強化基金による事業

文化庁及び経済産業省からの補助金により造成した文化芸術活動基盤強化基金を財源として支援を行っています。

支援件数 **122** 件
支援総額(予定) **170億4,031** 万円
(令和6年度～8年度の3年間、令和7～9年度の3年間、令和7～8年度の2年間にわたる継続的な支援事業の合計)



ロゴのデザインは平面をもとに、日本のクリエイター、アーティスト、文化芸術が国境を越え、世界に飛び出す姿をイメージしています。平面はあらゆる方向に無限に拡がる力を連想させます。日本を起点にした、新しい創造の拡がりにご期待ください。



クリエイター
支援基金
ウェブサイト

芸術文化振興基金・文化芸術振興費補助金による助成事業



国内

実施地域 **47** 都道府県

鑑賞者数 **395** 万人以上

公演回数 **7,700** 回以上

展示日数 **2,385** 日



海外

実施地域 **29** 国・地域 **83** 都市

鑑賞者数 **11** 万人以上

公演回数 **331** 回



文化芸術振興費補助金による
委託事業(学校巡回公演)

実施校数 **1,672** 校

鑑賞者数 **39** 万人以上

(令和6年度実績)

公演事業

「国立の劇場」として、質の高い公演をより幅広く、多くの人へ



令和8年初春歌舞伎公演「鏡山旧錦絵」
(左より)市村光、中村萬太郎、坂東彦三郎、中村時蔵、八代目尾上菊五郎、七代目尾上菊五郎、中村魁春、中村玉太郎、坂東彌十郎、坂東楽善、市村竹松

歌舞伎

文楽



令和8年初春文楽公演「新薄雪物語」(左より)桐竹勘十郎、吉田和生、吉田玉男

能楽



令和7年9月定例公演「野宮」観世清和

大衆芸能



令和8年2月特別企画公演
「演芸大にぎわい〜東から西から〜」三笑亭夢太郎

舞踊



令和7年11月舞踊公演 舞の会
「由縁の月」井上八千代

組踊等沖縄伝統芸能



令和7年10月公演 組踊「西南敵討」(左より)石川直也、川満香多、玉城盛義

国立劇場、国立演芸資料館(国立演芸場)、国立能楽堂、国立文楽劇場、国立劇場おきなわでは、歌舞伎、文楽、舞踊、邦楽、雅楽、声明、民俗芸能、大衆芸能、能楽、組踊等沖縄伝統芸能など、多岐にわたる伝統芸能の公開を行い、その保存と振興を図っています。
また、新国立劇場ではオペラ、舞踊(バレエ、ダンス)、演劇の公演を実施し、現代舞台芸術の振興と普及に努めています。

主催公演の実施

◆伝統芸能の公演

日本の伝統芸能の多種多様な演出や技法を尊重し、つとめて伝承のままの姿で公開できるよう、周到な調査を重ねて公演を企画・制作しています。また、上演の途絶えている優れた演目・場面の復活や復曲、伝統的な演出や技法をより発展させる試みとしての新作の上演も行っています。

歌舞伎については物語の展開を理解しやすいよう筋を通した「通し狂言」での上演に努め、上演が途絶えていた場面の復活や新作脚本の募集を行っています。

文楽でも「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等に加え、復活場面や新作の上演を行っています。

能楽では伝統的な能狂言の演目と各流の演者を、能楽全体

を見渡す視点に立って組み合わせた公演を中心に、上演機会の稀な作品や復曲作品、新作の上演も行っています。

その他のジャンルについても質の高い技芸の公開を基本としつつ、様々な流派を一堂に集めての上演や、一つのテーマに沿った複数の演目の上演等、国立劇場ならではの企画性の高い公演を実施しています。



公演をさがす

◆現代舞台芸術の公演

新国立劇場では国際的に比肩しうる高い水準のオペラ、舞踊(バレエ、ダンス)、演劇公演を企画・制作し、上演しています。演目の決定及び制作は各部門の芸術監督の責任と判断により行っています。

また、見どころの解説や小冊子の配布など、初心者にも親しみやすい工夫を行うとともに、多言語対応や青少年・親子向け公演など、幅広い観客層に楽しんでいただける取組を展開しています。さらに、全国各地の劇場等での公演に加え、国際文化交流の進展に寄与する公演や、より多くの方に鑑賞機会を提供するための舞台映像配信等にも取り組んでいます。

開かれた劇場として

鑑賞し、愛好して下さるお客様なくして伝統芸能の継承は成り立たないとの考えのもと、国立劇場では開場翌年の昭和42年(1967)に「歌舞伎鑑賞教室」を開始しました。以来、伝統芸能の次世代への継承、青少年等が現代舞台芸術に触れる機会の確保、新たな観客層の育成を目的として、各分野において低廉な料金でその魅力を分かりやすく紹介する鑑賞教室を実施しています。

国立劇場・国立演芸場公演について、再整備期間中は他の施設を使用して継続しています。

数字で見る公演事業

主催公演回数

歌舞伎	91回	文楽	464回	能楽	63回	大衆芸能	167回	舞踊・邦楽 雅楽・声明等	18回	組踊等	28回
オペラ	51回	バレエ	63回	ダンス	12回	演劇	95回				

(令和7年度実績)



オペラ

令和6年7月 オペラ「トスカ」撮影：堀田力丸



バレエ

令和6年10月 バレエ「眠れる森の美女」撮影：瀬戸秀美



ダンス

令和7年7月「The Theory of Reality」撮影：瀬戸秀美



演劇

令和7年12月「スリー・キングダムス Three Kingdoms」撮影：田中亜紀

養成研修事業

舞台芸術の次代を担う人を育て、未来へつなぐ



歌舞伎俳優研修



歌舞伎

令和8年3月歌舞伎俳優研修発表会「茶壺」



組踊

令和8年3月 第七期組踊研修修了発表会 撮影：大城洋平



大衆芸能

大神楽研修

令和7年3月大衆芸能(太神楽)研修修了発表会「五階茶碗」



能楽

能楽(三役)研修

令和8年3月能楽(三役)研修修了発表会(第39回青翔会)能「石橋」



文楽

文楽研修

令和8年1月文楽研修修了発表会 素浄瑠璃「一谷嫩軍記」熊谷桜の段

国立劇場における伝統芸能の伝承者養成事業は、昭和45年(1970)以来50年以上にわたり続いてきました。現在、国立劇場養成所では歌舞伎、文楽、大衆芸能、能楽、国立劇場おきなわでは組踊の伝承者を養成しています。新国立劇場にはオペラ研修所、バレエ研修所、演劇研修所が設けられ、オペラ歌手、バレエダンサー、俳優のための全日制研修を行っています。

伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能は無形の技であり、人から人へと伝承されるものです。国立劇場養成所では、伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、伝承者を安定的に確保するため、一般から広く研修生を募集し、伝承者の養成に取り組んでいます。

研修生たちは数年間かけて、重要無形文化財保持者(人間国宝)等の第一線で活躍している一流の講師から直接指導を受け、実技はもとより、伝承者として必要な知識や礼儀作法など

を基礎から学びます。

研修修了者は舞台出演の経験を重ね、伝統芸能の保存及び振興に大きな役割を果たしています。日頃の研鑽の成果を披露し、一層の技芸向上を図るため、研修修了者など若手伝承者が出演する既成者研修発表会等も実施しています。



国立劇場養成所

国立劇場・国立演芸場の再整備期間中、両施設で実施していた養成研修については、国立オリンピック記念青少年総合センターに場所を移して継続しています。

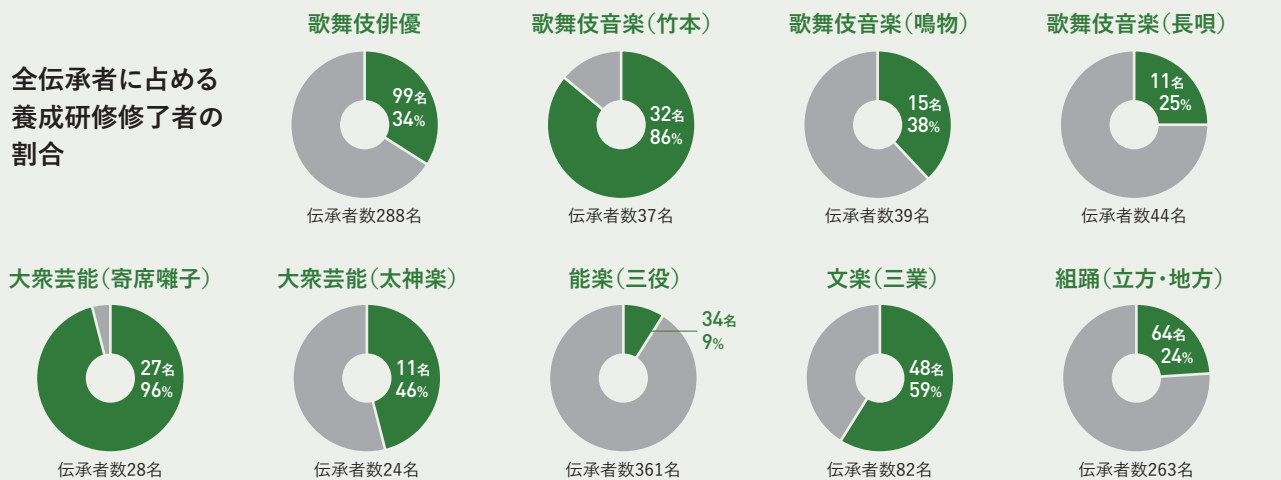
お問い合わせ：国立劇場養成所 東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内
03-3265-7105(午前10時～午後6時)

現代舞台芸術の実演家等の研修

現代舞台芸術の人材育成については、次代を担うオペラ歌手、バレエダンサー、俳優のため全日制研修を行っています。海外からの講師招聘や海外研修を含め、最高水準の指導陣により専門

的教育、幅広い知識・教養の習得に加え、舞台実習など充実したカリキュラムで優秀な若手人材の育成に努めています。多くの修了者が新国立劇場をはじめ国内外で幅広く活躍しています。

数字で見る養成研修事業



(令和8年4月現在)



オペラ

令和8年2月 オペラスタジオ 2026春公演「ウィンザーの陽気な女房たち」撮影：友澤綾乃



バレエ

令和8年2月 バレエ研修所修了公演「エトワールへの道程 2026」『En Bateau』撮影：瀬戸秀美



演劇

令和8年2月 演劇研修所 第19期生修了公演「社会の柱」撮影：宮川舞子

調査研究・資料収集事業

伝承、創作の土台を支え、その成果を広く公開



資料展示室(国立能楽堂)

伝統芸能・現代舞台芸術について調査研究や資料の収集を行い、関係資料を主催公演に活用するとともに、その成果を研究者や関係機関、一般の方に向けて幅広く提供しています。

伝統芸能

◆調査研究

公演の実施にあたり、過去の上演記録等を調査して上演資料集を作成するほか、日本各地の演劇興行に関する記録や伝統芸能について調査研究を行い、その成果を書籍・図録等の刊行物やオンライン(文化デジタルライブラリー)で公開しています。



文化デジタルライブラリー

◆資料の収集・活用

各館において伝統芸能全般に関する図書や博物資料などの収集・分類整理を行い、一般の閲覧に供するとともに、デジタルアーカイブ化を進め、文化デジタルライブラリーのほか、「文化遺産オンライン」「ジャパンサーチ」等で広く公開しています。

◆公演記録の作成・活用

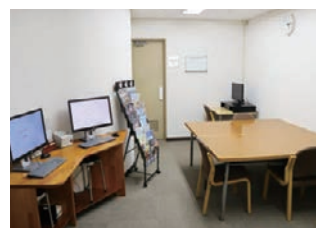
主催公演の記録を映像、写真等で作成・保存し、公演関係者や研究者のほか一般の視聴・閲覧に供しています。また、公演記録映像の配信などを実施しています。

◆展示・講座

伝統芸能の理解促進や普及のため、展示や公開講座などを実施しています。



展示・資料



図書閲覧室(国立文楽劇場)



国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞」図録

国立劇場・伝統芸能情報館・国立演芸場は再整備事業のため閉館しましたが、展示等の事業については他の施設で継続しています。



国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞」(国立文楽劇場)



第13回文楽特別講座「文楽アメリカ公演 レポート&トーク!」(国立文楽劇場)

数字で見る調査研究・資料収集事業

図書・資料収集点数

国立劇場・国立演芸場

図書 303,286冊 資料 422,230点

国立文楽劇場

図書 51,784冊 資料 36,983点

新国立劇場

図書 73,830冊 資料 14,605点

※図書(単行本、逐次刊行物、筋書、台本他)

資料(音声資料、版画、番付、写真、録画・録音テープ、面、装束、首(かしら)、人形、楽器、小道具他)

国立能楽堂

図書 53,344冊 資料 134,653点

国立劇場おきなわ

図書 13,997冊 資料 16,597点

(令和7年度末現在)

現代舞台芸術

現代舞台芸術の公演や作品について調査を行い、新国立劇場の主催公演の充実に活用する他、その成果を講演会や展示等で紹介しています。新国立劇場内に設けられた情報センターでは、主催公演のプログラムや参考図書を閲覧できるほか、主

催公演等の映像資料を視聴することができます。また、現代舞台芸術に関する公開講座や、「新国デジタルシアター」を通じた公演記録映像の配信を行うなど、現代舞台芸術の普及に努めています。



初台アート・ロフト「ゆらぎ―柳桜の景― Yuragi-Whisper of Willow and Sakura-」展(令和8年春) 撮影:田中亜紀



情報センター閲覧室(新国立劇場)

日本博

日本の美と心を世界へ



公益社団法人大日本弓馬会

日本博事務局では日本の文化芸術の魅力を世界に発信し、地域の文化振興を目的とした官民大型プロジェクト 日本博の企画・実施、プロモーションといった事務を行っています。文化庁、関係府省庁、全国の文化施設、地方自治体、民間企業・団体等と協力し、美術展・舞台芸術公演、芸術祭などを全国各地で展開しています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に文化芸術の祭典として始まった日本博は、2025大阪・関西万博を目指した日本博2.0を経て、令和8年度より新たなスタートを切りました。全国各地の文化を活かし日本の可能性を拓くこと、多様性に富んだ地域の伝統文化とコンテンツの活用、2027年国際園芸博覧会をはじめとする国際プロジェクトへの貢献、という新たな3つの項目に視点を当てて実施します。

これからも日本博は多様な主体の参画と対話により、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、社会課題の解決、経済社会の新しい成長、そして平和への祈りへとつながることを希求します。



公益財団法人山本能楽堂



数字で見る日本博

令和7年度日本博事業

採択件数
82件

採択金額
39億円

外国人来訪者数
約 **271**万人

普及教育・バリアフリー・外部連携

普及教育 ～多くの出会いの場を創る～



伝統芸能体験教室「やってみる歌舞伎音楽 竹本」(令和7年7月)

◆入門企画・ワークショップ・イベント

歌舞伎・文楽・能楽などの各ジャンルで幅広い観客を対象とした入門企画を行っています。観劇だけでなく小道具や楽器、能面などに触れられる体験コーナーを設けるなど、初めての方でも楽しめる企画をご用意しています。

その他、公演に関連した講座や記録映像の上映、伝統芸能に関する本をテーマとした読書会、国立劇場養成所が開催する伝統芸能体験教室、各地域で行うワークショップなど、様々な形で伝統芸能に触れられるアウトリーチプログラムを実施しています。

◆オンラインコンテンツ

インターネットを通じて伝統芸能の教育用コンテンツや動画、主催公演の公演記録情報、収蔵資料の画像、ゲームなどを公開しています。

文化デジタルライブラリー

文化デジタルライブラリーでは、日本の伝統芸能を紹介する舞台芸術教材や、国立劇場各館の主催公演の公演記録情報、錦絵・プロマイドなどの収蔵資料、歌舞伎・文楽の上演資料集、電子図書を公開しています。



国立劇場こどもサイト

お子様向けの伝統芸能の紹介やイベント情報、ゲームなどのコンテンツをお楽しみいただけます。



また、外部の研修プログラムにコンテンツを提供するなど、伝統芸能を知る機会を幅広くご用意しています。

数字で見る普及教育

歌舞伎鑑賞教室

累計来場者数

650万人突破

(昭和42年(1967)～
令和8年(2026)現在)



歌舞伎鑑賞教室来場者650万人記念セレモニー
(令和8年7月)

オリジナルキャラクター



〈国立劇場〉
くろごちゃん



〈国立能楽堂〉
はんにゃちゃん

バリアフリー ～あらゆる人のための劇場として～

各館では、より多くの方に快適に観劇をお楽しみいただけるよう、公演ごとに様々な取り組みを行っています。

- 障害者割引
- 車椅子スペース
- 車椅子の貸出
- 補助犬の同伴
- 筆談器具のご利用
- お席へのご案内
- イヤホンガイド(日本語・英語)
- 字幕(投影・アプリ)
- 台本貸出

※各公演の詳細についてはお問い合わせください。

ご相談窓口

日本芸術文化振興会 総務部総務課
050-1750-5333(平日 午前10時～午後6時)
FAX:050-3385-3202

バリアフリー情報



外部連携



お茶の水女子大学との共同プロジェクト「日本の伝統芸能」(令和7年10月)

他劇場や企業、大学、図書館、博物館、地方自治体などと連携し、地方における共催公演や共同講座、研修会、公演前のレクチャー、ワークショップ、展示など、様々な企画を行っています。また、商品の共同開発など、新たな取り組みも展開しています。

海外の劇場や舞台芸術関係者とも交流し、海外公演も実現しています。令和6年(2024)9月から10月にかけて全米5都市において文楽公演を9公演実施し、併せて行ったワークショップも好評を博しました。令和7年には大韓民国国立国楽院及び国立釜山国楽院の招聘により、琉球舞踊・組踊をソウルとプサンの2会場で上演しました。国立釜山国楽院とは連携協定を締結し、引き続き交流公演を予定しています。



大韓民国国立釜山国楽院ヨナクダンでの琉球芸能公演(令和7年6月)

国立劇場再整備等事業

開場から60年近くが経ち、老朽化が進み、安全で時代に合った施設・設備を整えるため、国立劇場は国立演芸資料館（国立演芸場）と伝統芸能情報館を含め、令和5年10月末に閉場・閉館しました。建設費の高騰等による2回の入札不成立を踏まえ、建設市場の動向に対応しつつ、条件の見直しを行ったうえで、令和7年度末に3回目の入札公告を行いました。

今後も実演家の芸芸や公演制作の技術等を途切れなく伝承するために、再整備に伴う閉場期間は可能な限り短縮を図り、早期の再開場に向け、引き続き関係者と調整・協議を進めてまいります。



国立劇場等の再整備について

経緯

- 2019(令和元) 10月 「国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム」設置(以下、PT)
- 2020(令和2) 3月 「国立劇場の再整備に係る整備計画策定に向けた基本方針」をPTにて決定
- 7月 「国立劇場の再整備に係る整備計画」をPTにて決定
- 2022(令和4) 4月 国立劇場再整備等事業 入札公告
- 11月 入札不調の公表
- 2023(令和5) 2月 国立劇場再整備等事業 再度の入札公告
- 8月 入札不落の公表
- 2024(令和6) 3月～ 「国立劇場再整備に関する有識者検討会」を開催
- 5月 「中間まとめ」を公表
- 12月 「国立劇場の再整備に係る整備計画」改定
- 2025(令和7) 9月 「国立劇場の再整備に係る整備計画」改定(スケジュール公表)
- 12月 「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」公表
- 2026(令和8) 3月 国立劇場再整備等事業 入札公告



国立劇場大劇場の廻り舞台を支えるレール



レールに入ったひび



国立劇場



国立劇場本館(大劇場・小劇場)

敷地総面積	31,269㎡
建築面積	10,807㎡
延べ面積	26,567㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地上3階・地下1階
竣工	昭和41年9月
設計者	岩本博行 他13名

事務棟

766㎡
2,501㎡
鉄骨造
地上4階
平成8年8月
環境開発研究所

国立演芸資料館 (国立演芸場)



建築面積 1,094㎡

延べ面積 2,516㎡

構造 鉄筋コンクリート造

階数 地上4階・地下1階

竣工 昭和54年2月

設計者 佐藤武夫設計事務所



建築面積 445㎡

延べ面積 2,589㎡

構造 鉄筋コンクリート造

階数 地上5階・地下2階

竣工 平成15年3月

設計者 教育施設研究所

施設のご案内

主催公演等で使用する期間を除いた日については劇場施設を貸し出しています。伝統芸能の保存・振興、現代舞台芸術の振興・普及事業に対する利用を基本とし、舞台技術職員等による技術協力や、舞台備品の貸出や受付・案内スタッフの手配等を行っています。そのほか式典や講演会、撮影など、様々な用途に利用されています。



国立能楽堂

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4丁目18番1号
TEL 03-3423-1331(代表) FAX 050-3852-5461





敷地総面積	8,038㎡
建築面積	4,408㎡
延べ面積	10,055㎡
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上2階・地下1階
竣工	昭和58年8月
設計者	大江宏建築事務所
附属施設	資料展示室、図書閲覧室、大講義室、稽古室、研修室
バリアフリー情報	車椅子スペース、 車椅子用トイレ(押しボタン自動開閉式ドア、手すり、オストメイト)、 障害者用駐車場

能舞台(1階)



見所	席数 627席 正面席 245席 脇正面席 190席 中正面席 156席 GB席 36席
舞台	舞台 5.40m(18尺) 正方 橋懸かり 幅2.55m(8尺4寸) 長さ13.5m(44尺6寸) 舞台との角度 26度 鏡の間 48.4㎡(約29帖) 装束の間 34.7㎡(約21帖)

研修能舞台(2階)



見所	見所面積 170㎡(約103帖) 収容人員 100名程度
舞台	舞台 5.15m(17尺2寸) 正方 橋懸かり 幅2.47m(8尺1寸) 長さ7.02m(23尺4寸) 舞台との角度 10度 鏡の間 32.1㎡(約20帖)

【交通】
JR／中央・総武線(千駄ヶ谷駅)徒歩5分
地下鉄／都営大江戸線(国立競技場駅) A4番出口徒歩5分
東京メトロ副都心線(北参道駅) 1番・2番出口徒歩7分
都バス／早81・黒77(千駄ヶ谷駅前) 徒歩5分
ハチ公バス／神宮の杜ルート(国立能楽堂) 徒歩1分





国立文楽劇場

〒542-0073 大阪府大阪市中央区日本橋1丁目12番10号
TEL 06-6212-2531(代表) FAX 050-3852-5446





敷地総面積	4,464㎡
建築面積	3,925㎡
延べ面積	13,211㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地上5階・地下2階
竣工	昭和59年1月
設計者	黒川紀章建築都市設計事務所
附属施設	資料展示室、図書閲覧室、研修室、文楽情報コーナー
バリアフリー情報	車椅子スペース(文楽劇場のみ)、 多目的トイレ(引き戸(手動)、手すり、オストメイト対応)、 エレベーター

文楽劇場(2階)



客席	総席数 753席 花道設置時 677席 出語り床設置時 731席
舞台設備	間口 17.5m(9間4尺) 高さ 6.0m(3間2尺) 奥行 18.5m(10間1尺) 廻り舞台 13.6m(7間3尺) 花道(可動式) 20.7m(11間2尺) 出語り床(半可動式) 舟底迫り(可動式) 大迫り 1台 中迫り 1台(6分割) 小迫り 5台 スッポン 1台(2分割)

小ホール(3階)



客席	総席数 159席
舞台設備	間口 8.15m(4間3尺) 高さ 3.9m(2間1尺) 奥行 8.3m(4間3尺)

【交通】
地下鉄／
Osaka Metro堺筋線・千日前線(日本橋駅)
近鉄線(近鉄日本橋駅) 7号出口(両駅共用) から東へ徒歩1分





敷地総面積	24,000㎡
建築面積	7,239㎡
延べ面積	14,729㎡
構造	鉄筋コンクリート造 一部プレストレストコンクリート造
階数	地上3階・地下1階
竣工	平成15年7月
設計者	高松伸建築設計事務所
附属施設	稽古室、資料展示室、レファレンスルーム、 研修室、講義室、試写・視聴室、会議室、交流プラザ
バリアフリー情報	多目的トイレ(自動開閉式ドア、ベビーおむつ替えシート、オストメイト)、 エレベーター、障害者用駐車場

大劇場(1階)



客席	オープンステージ 578席 プロセニウムステージ 632席 花道設置時 579席
舞台設備	間口(プロセニウム)14.54m(8間) 高さ(プロセニウム)7.27m(4間) 奥行 21.46m(11間4尺) 廻り舞台 13.6m(7間3尺) オープンステージ(可動式) 花道(可動式)19.86m 大迫り 1台 小迫り 1台 スッポン 1台

小劇場(1階)



客席	総席数255席
舞台設備	間口(プロセニウム)12.10m(6間4尺) 高さ(プロセニウム)6.30m(3間3尺) 奥行 9.25m(5間1尺)



【交通】

バス／(結の街)徒歩1分
バス／(国立劇場前)徒歩3分
バス／(勢理客)徒歩10分
タクシー／那覇空港から約20分



敷地総面積	28,688㎡
建築面積	19,489㎡
延べ面積	69,474㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
階数	地上5階・地下3(中1階)階・塔屋1階
竣工	平成9年2月
設計者	柳澤孝彦+TAK建築研究所
附属施設	リハーサル室、スタジオ、講義室、 ビデオシアター、ビデオブース、閲覧室
バリアフリー情報	車椅子スペース、車椅子・オストメイト対応トイレ、 エレベーター、障害者用駐車場

オペラ劇場



客席数	1,814席
舞台形状	四面舞台 プロセニウム間口 幅16.38m(9間) 高さ12.5m(6間5尺) ポータル開口 幅14.6m(8間)~18.8m(10間2尺) 高さ10.5m(1.6尺)~14.0m(7間5尺)
主舞台	迫り 18.2m(10間)×3.64m×5枚 迫りの行程 +4.5m~-15.7m 高さ 舞台面からスノコまで 30.5m(16間5尺) 舞台面から奈落まで -15.7m(8間4尺)
側舞台	トラッキングワゴン 18.2m(10間)× 3.64m×上手・下手各5枚
奥舞台	スライディングステージ18.2m(10間)×18.2m(10間) 盆直径16.38m(9間)
オーケストラ	広さ147㎡ 行程±0m~-2.65m
ピット	収容演奏者数 4管編成(120人程度)

中劇場



客席数	プロセニウム形式 1,038席 オープン形式 1,010席
舞台形状	四面舞台 プロセニウム間口 幅16.8m(9間1尺) 高さ9m(5間)
主舞台	迫り 14.58m(8間)×3.64m(2間)×2枚 14.58m(8間)×7.27m(4間)×1枚 迫りの行程 +4.5m~-15.7m 高さ 舞台面からスノコまで 21.3m(11間4尺) 舞台面から奈落まで -15.7m(8間4尺)
上手側舞台	スライディングステージ 14.58m(8間)×14.58m(8間)
奥舞台	スライディングステージ 14.58m(8間)×14.58m(8間) 盆直径 12.74m(7間)
前舞台	可変型 行程+0.5m~-4.50m

小劇場



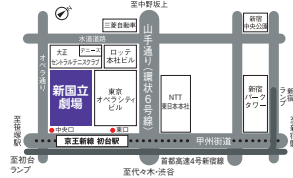
客席数	最大468席(舞台形状と奥行(3間~5間)による)
平面寸法	27.6m×16.6m 高さ10m(5間3尺)
可動床	25.5m×12.7m
副舞台	8.7m×3.3m(迫り、道具搬入口設置)

【交通】

地下鉄／京王新線
(都営新宿線乗り入れ)
〈初台駅〉中央口直結

●舞台美術センター

〒288-0874
千葉県鎌子市豊里台1丁目1044番
TEL 0479-30-1048



会員組織のご案内

伝統芸能を愛する方々のために会員組織を設け、様々な会員特典をご提供しています。

国立劇場あぜくら会



会員限定イベント「あぜくらの集い」(令和8年5月)

会員特典

- 国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂主催公演のチケット先行申込み・会員割引
(国立文楽劇場・新国立劇場・国立劇場おきなわの主催公演も割引料金にてお求めいただけます。)
- 会報誌「あぜくら」、会員限定イベント「あぜくらの集い」、チケット無料配送など

お申込み・お問い合わせ

国立劇場あぜくら会事務局

03-3264-0555(平日 午前10時~午後5時)



国立文楽劇場友の会

会員特典

- 国立文楽劇場主催公演のチケット先行申込み・会員割引
(国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂・新国立劇場・国立劇場おきなわの主催公演も割引料金にてお求めいただけます。)
- 会報誌「文楽友の会会報」、会員限定イベント、チケット無料配送など

お申込み・お問い合わせ

国立文楽劇場友の会事務局

06-6212-5748(平日 午前10時~午後5時)



国立劇場キャンパスメンバーズ

大学、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校(学部、学科等の単位でも可)にご入会いただくと、所属する学生・教職員の皆様が様々な特典を受けられます。

会員特典

- 国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂主催公演の割引(一般料金の半額、一部対象外公演・等級あり)
- 公演プログラムの特別割引、会員限定のイベントへの参加など

お申込み・お問い合わせ

国立劇場営業部 普及営業課

03-3265-6751(平日 午前9時30分~午後6時15分)



寄附のご案内

日本芸術文化振興会では、法人・個人の方からの寄附を受け付けております。文化芸術のもたらす喜びをより多くの人に届け、未来へつなげるためには、応援して下さる皆様の力が必要です。いただいたご支援は、一人ひとりの心豊かな人生と、多様性と活力に満ちた社会への大きな力となります。温かいご支援をいただけましたら幸いです。



くろごちゃんファンド(国立劇場基金)

国立劇場各館が行う伝統芸能の保存と振興を目的とした事業に役立てます。

お問い合わせ

日本芸術文化振興会 寄附担当
03-3265-6719
(平日 午前10時~午後6時)



国立劇場養成所サポーター

明日を担う伝承者の養成と共に支えます。継続的なご寄附によって国立劇場養成所の研修生たちの成長をご支援いただく制度です。

お問い合わせ

国立劇場養成所 養成企画課
03-3265-7105
(平日 午前10時~午後6時)



芸術文化振興基金

当基金は文化芸術団体等が行う普及・振興活動を支援します。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附を募集しております。

お問い合わせ

基金・助成事務局 企画調査課
03-3265-6302
(平日 午前10時~午後6時)



紺綬褒章について

当振興会は内閣府賞勲局より、公益のために私財を寄附された方に授与される「紺綬褒章」の公益団体認定を受けております。個人の方で500万円以上、団体で1,000万円以上のご寄附をいただいた場合には、寄附者のご意向を確認の上、紺綬褒章授与の申請をいたします。※予めお申し出いただいた分納によるご寄附も含まれます。

遺贈(遺言によるご寄附)について

遺贈とは、遺言書に基づいて、財産を特定の個人や団体に譲ることをいいます。遺言書で、財産の一部又は全部)の受取人として日本芸術文化振興会をご指定いただいた場合、大切な財産の一部を、伝統芸能を未来へつなぐ活動に活かしていただくことができます。(その他の分野、事業等への使途のご指定も可能です。)なお、日本芸術文化振興会への遺贈によるご寄附は、相続税法上の優遇措置を受けることができ、ご寄附分の相続税は課税されません。

相続財産寄附について

相続人様が、相続された財産を相続税の申告期限内に日本芸術文化振興会にご寄附いただいた場合、その分の相続税は非課税となります。

※いずれも確定申告により税制上の優遇措置の対象となります。

発 行

独立行政法人日本芸術文化振興会

〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1

TEL 03-3265-7411

<https://www.ntj.jac.go.jp/>

